

2022.05.24



虎ノ門・麻布台プロジェクト工事現況(2022年5月撮影)



2022年3月期 決算概要



2022年3月期 連結損益計算書の概要

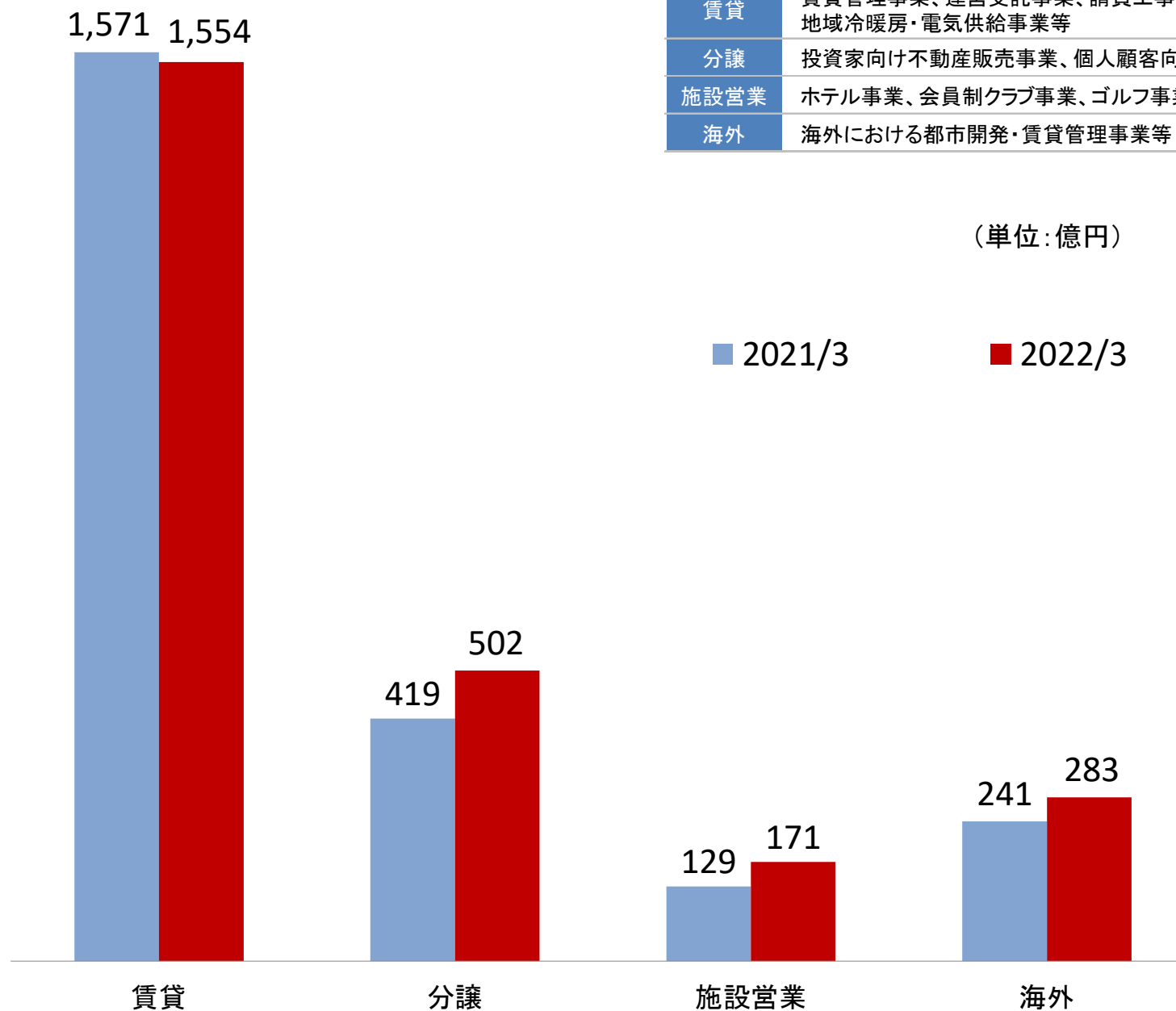


(単位:億円)

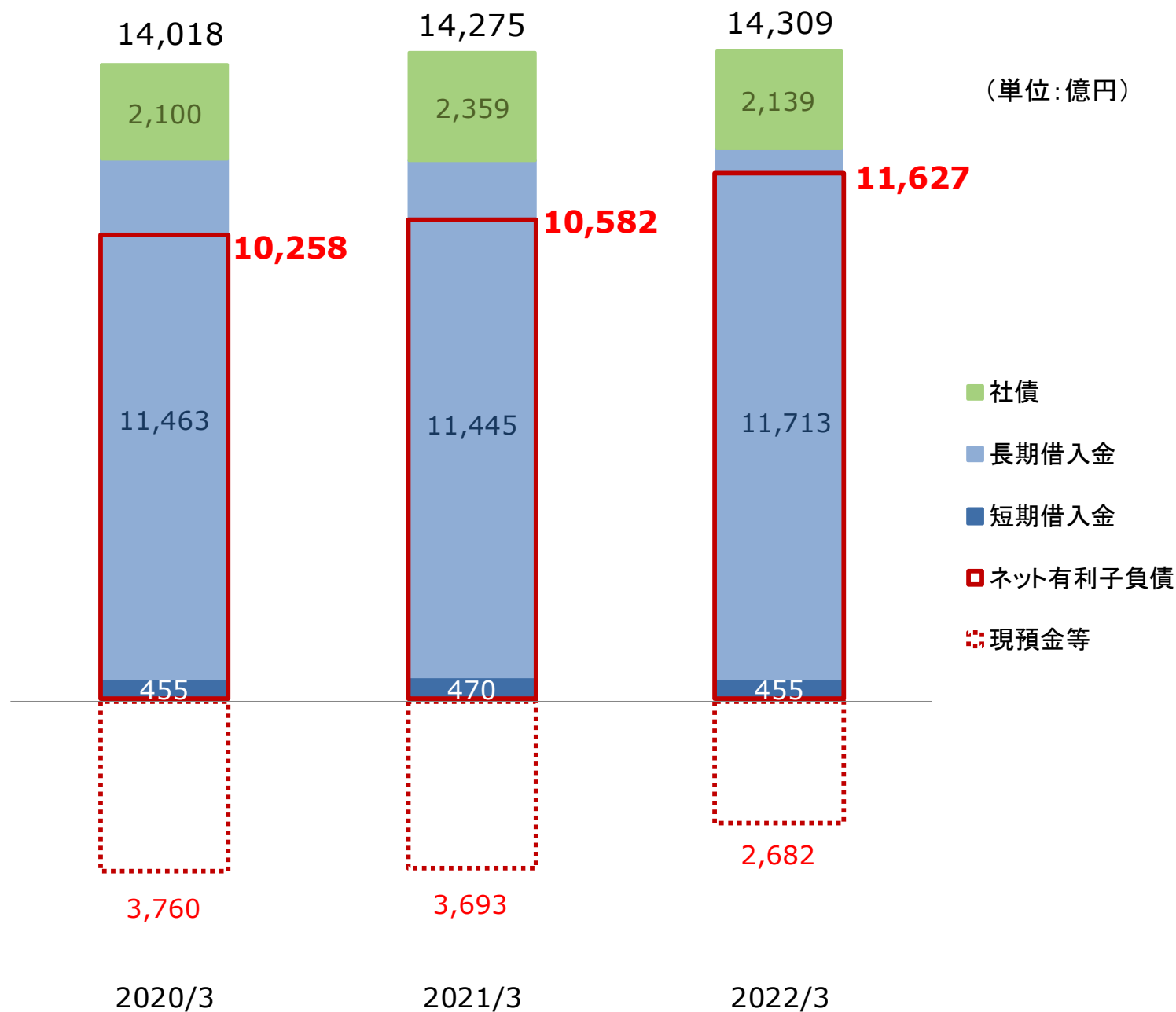
	2021/3	2022/3	増減	
営業収益	2,300	2,453	+152	+6.6%
営業利益	509	527	+18	+3.6%
営業外損益	△23	9	+33	
経常利益	485	537	+51	+10.7%
特別損益	△20	87	+107	
税金等調整前当期純利益	465	624	+159	
親会社株主に帰属する当期純利益	314	422	+108	+34.5%

■セグメントの内容

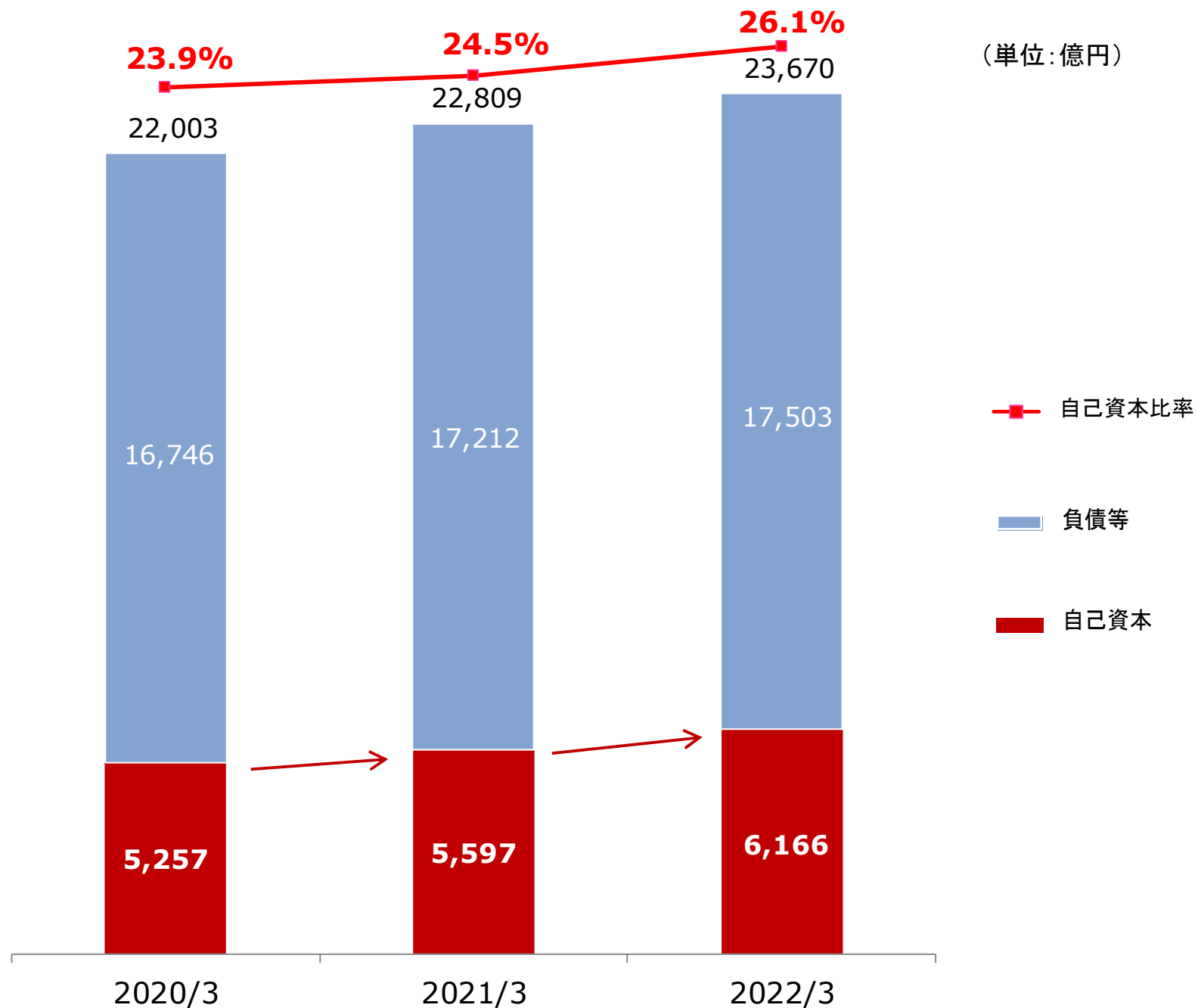
賃貸	賃貸管理事業、運営受託事業、請負工事事業、 地域冷暖房・電気供給事業等
分譲	投資家向け不動産販売事業、個人顧客向け住宅分譲事業
施設営業	ホテル事業、会員制クラブ事業、ゴルフ事業
海外	海外における都市開発・賃貸管理事業等



2022年3月期 有利子負債の状況



2022年3月期 自己資本(比率)の状況



2023年3月期 業績予想

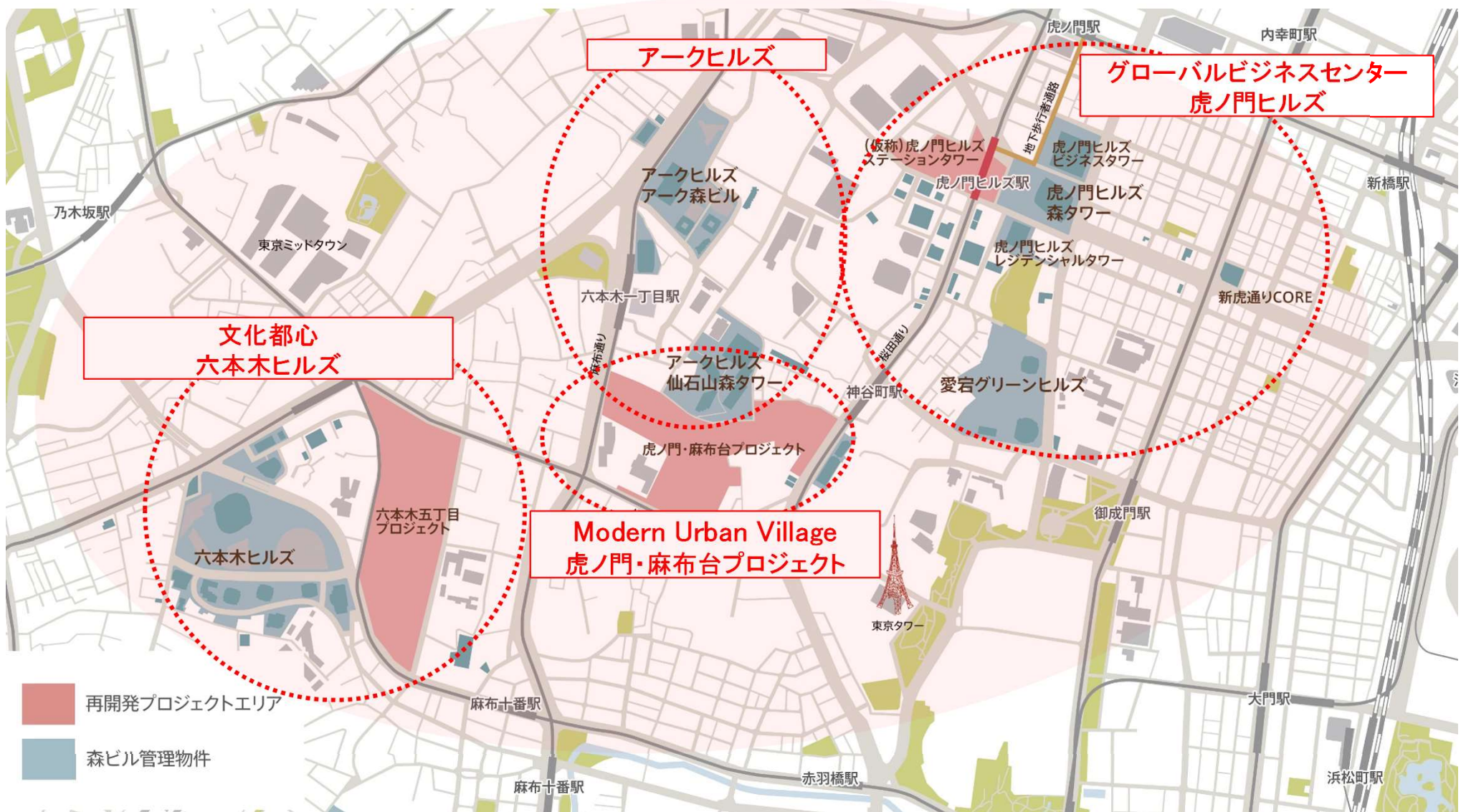
(単位:億円)

	2022/3	2023/3 予想	増減	
営業収益	2,453	2,730	+276	+11.3%
営業利益	527	535	+7	+1.4%
経常利益	537	510	△27	△5.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	422	370	△52	△12.4%

森ビルの取り組み

※ 進行中のプロジェクトについては現段階での計画概要に基づいたものです。
完成時には一部異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。

現在計画・進行中の当社プロジェクト



ヒルズの未来形 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」

- 圧倒的なスケールとインパクトを誇る“ヒルズの未来形”。2019年8月に本体工事が着工。
- 超高層建築によって、足元に緑豊かな環境を創出し、オフィス、住宅、ホテル、インターナショナルスクール、商業施設、文化施設など、多彩な都市機能を一体的に集約された「立体緑園都市(ヴァーティカル・ガーデンシティ)」を実現。
- コンセプトは「Modern Urban Village」。圧倒的な緑に囲まれた、広場のような街が誕生。「Green」と「Wellness」を柱に、自然と調和した環境の中で多様な人々が集い、人間らしさの追求と新たなコミュニティの形成を目指す。



©Dbox for Mori Building Co.

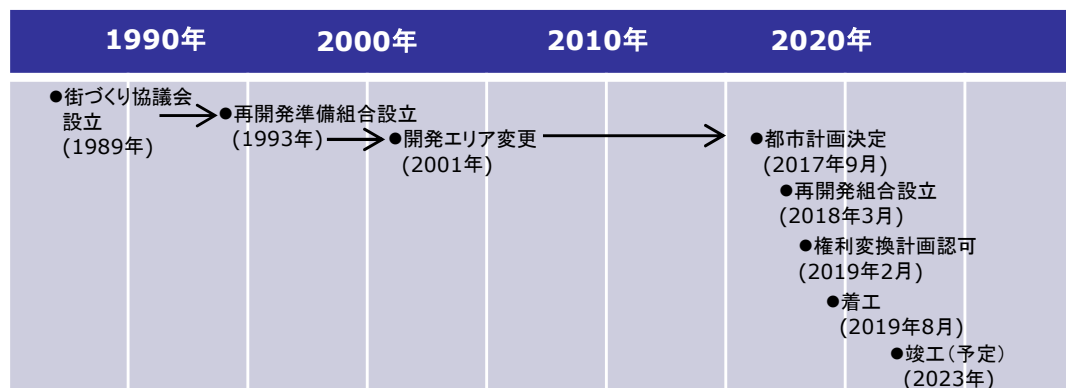
桜田通り 神谷町駅方面から計画地を望む
(イメージ)



中央広場(イメージ) ©Dbox for Mori Building Co.



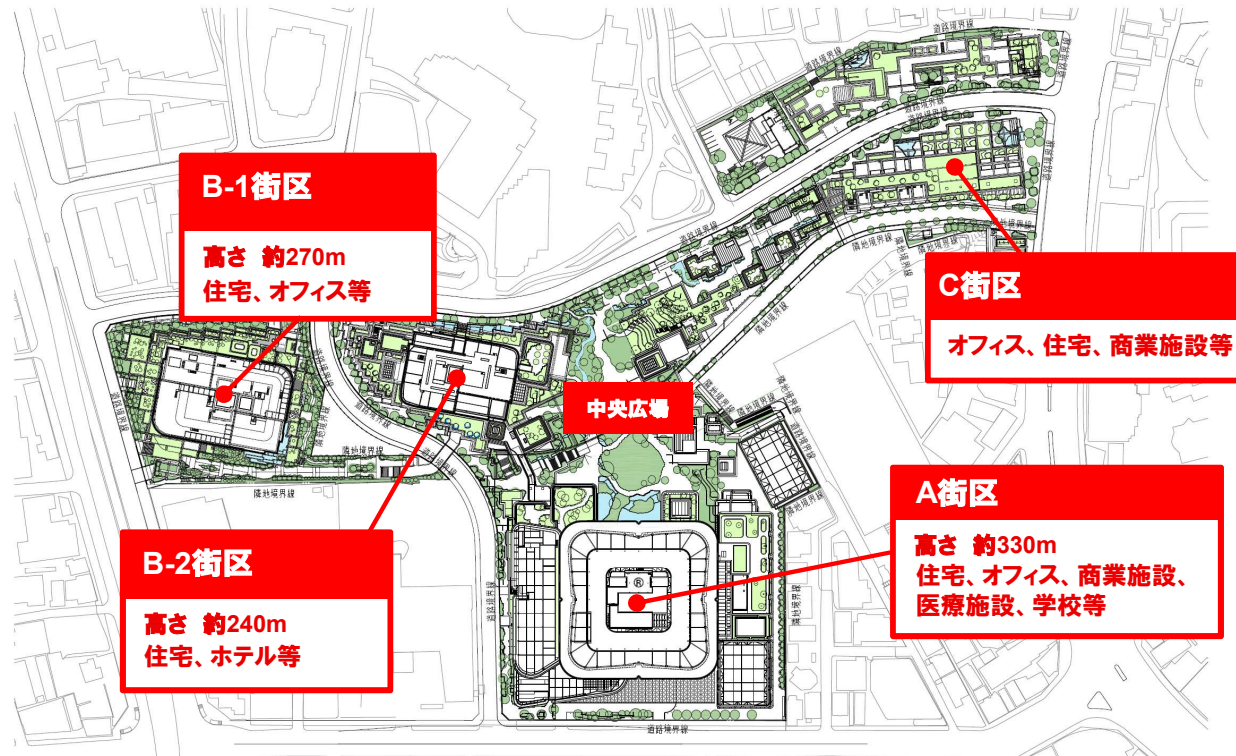
現場写真(2022年3月撮影)



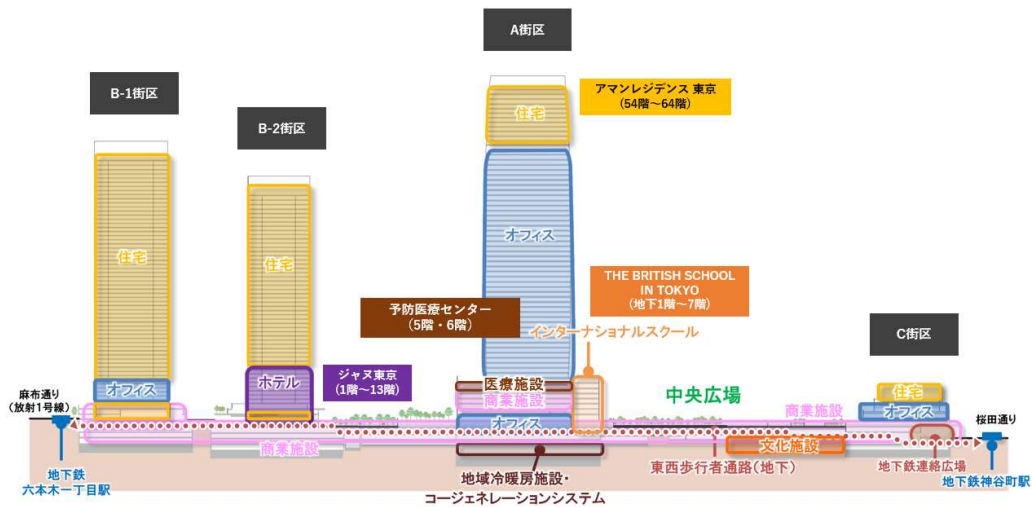
区域面積	約8.1ha
建築面積	約63,900㎡
延床面積	約861,500㎡
着工	2019年8月
竣工	2023年(予定)

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」

【平面図】



【立面図】



商業エリア(イメージ)

©Dbox for Mori Building Co.



フードマーケット(イメージ)

©Dbox for Mori Building Co.

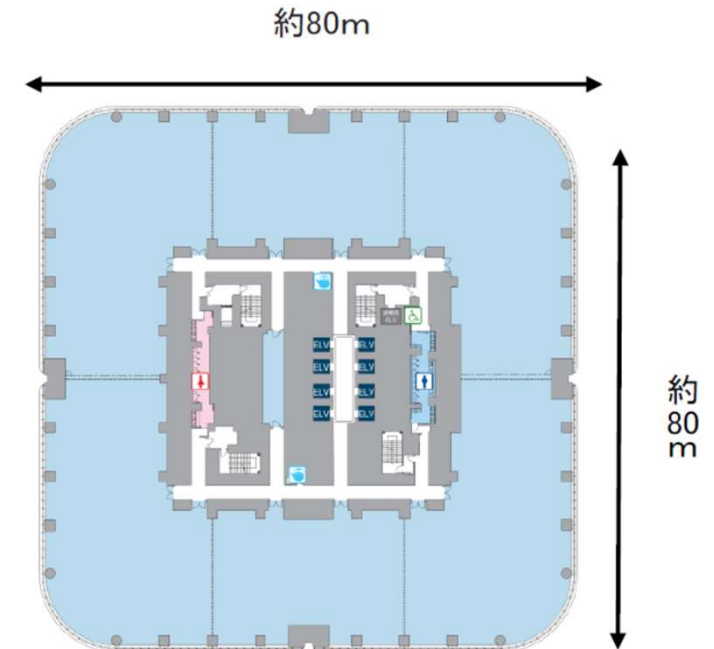


インターナショナルスクール
(イメージ)



「虎ノ門・麻布台プロジェクト」 A街区上棟

- 高さ約330mを誇る多用途複合の超高層タワーである「虎ノ門・麻布台プロジェクト A街区」が4月21日に上棟。
- 7階～52階のオフィスは、総貸室面積 約204,000㎡(約60,000坪)、基準階貸室面積は約4,300㎡(約1,290坪)～約4,840㎡(約1,460坪)。全方位に約18mの奥行きを有する整形な無柱空間によって、開放的で自由なオフィスレイアウトが可能。



基準階平面図



上棟式の様子(2022年4月21日撮影)



オフィスエントランス(イメージ)

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」 慶應義塾大学医学部と共同研究第一弾を開始

- 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」において、「慶應義塾大学病院予防医療センター」の拡張移転および「ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座」の開講に関する基本協定を締結。
- 個別化する受診者のニーズに応じた予防医療や、さまざまな施設を結ぶウェルネスプログラム、共同研究講座の研究結果に基づく新たな予防医療・ウェルネスサービスの社会実装などで、この街に住み、働くことの全てが「真に豊かな健康」に繋がり、あらゆる世代の人々が心身ともに生き生きと暮らし続けられる街づくりを目指す。
- 2021年4月に「ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座」を開設し、2022年2月より森ビル株式会社の従業員40名を対象に、共同研究の第一弾を開始。



©Dbox for Mori Building Co.



メンバーシッププログラムイメージ



共同研究で使用する
持続血糖測定器

森ビル株式会社代表取締役社長 辻慎吾 コメント

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」のコンセプトに掲げた「ウェルネス」は、コロナ禍を経て、ますます重要視されている世界的なテーマです。予防医学のトップランナーとして、臨床と研究の両面から予防医学の最新形を追求し続けてきた慶應義塾と手を組むことで、「都市という単位でウェルネスによる豊かさを実現していく」という、これまでにない試みに挑戦し、国際都市・東京の磁力向上に貢献いたします。

- 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」において、世界有数のスモールラグジュアリーリゾートとホテルを擁する「アマン」とのパートナーシップにより、ブランデッドレジデンス「アマンレジデンス 東京」と、アマンの姉妹ブランドとなる日本初進出のラグジュアリーホテル「ジャヌ東京」を開業。
- 「アマンレジデンス 東京」は、都心にいながら、アマンのホスピタリティにより究極の非日常と穏やかさで満たされる生活を提供。
- 「ジャヌ東京」は、ゲストが魂(=JANU)のバランスを取り戻し、社会生活とマインドフルネスを一つ屋根の下に結びつける場所を提供するように設計され、約120室の客室、3000㎡超のスパや多様なシーンで利用可能な6つのレストラン、カフェやバーなどを備え、国内外から訪れる様々なゲストを温かなホスピタリティで迎える。



「アマンレジデンス 東京」の共用施設(イメージ)



「アマンレジデンス 東京」の居住者専用の「アマン・スパ」(イメージ)

森ビル株式会社代表取締役社長 辻慎吾 コメント

国際都市間競争を勝ち抜くためには、「都市の磁力」を高めることが不可欠です。森ビルは、世界で数々のリゾートを手掛けるアマンと手を組み、これまで東京にはなかったような世界トップレベルの住環境とホテルを創出し、都市における新しいウェルネスの形を実現することで、「都市の磁力」の向上に貢献してまいります。



区域面積	約7.5ha
延床面積	約80万㎡
オフィス面積	約30万㎡
住宅戸数	約720戸
商業面積	約2万6,000㎡
緑地面積	約1万5,000㎡

「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」

「国際新都心・グローバルビジネスセンター」へと拡大・進化



虎ノ門ヒルズ 森タワー(2014年竣工)

敷地面積 : 17,069㎡
 延床面積 : 244,360㎡
 高さ/階数 : 247m/地上52階
 用途構成 : オフィス、商業、住宅、ホテル、カンファレンス 等

虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー(2020年1月竣工)

敷地面積 : 約10,065㎡
 延床面積 : 約172,925㎡
 高さ/階数 : 約185m/地上36階
 用途構成 : オフィス、商業、インキュベーション施設、バスターミナル 等

愛宕山周辺地区(2022年1月竣工)

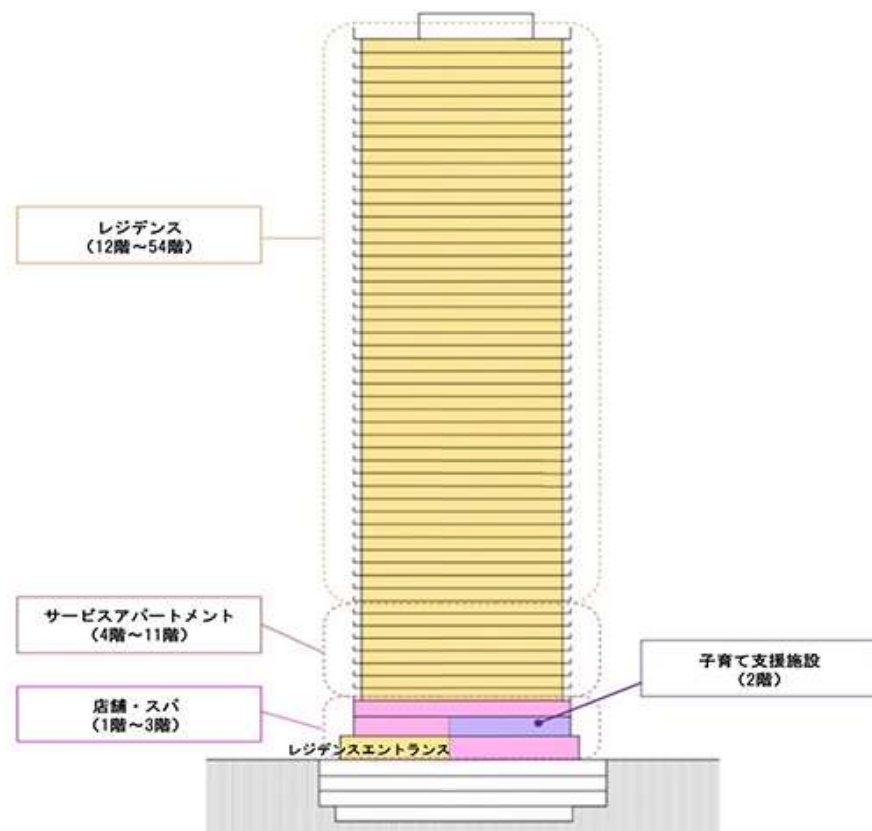
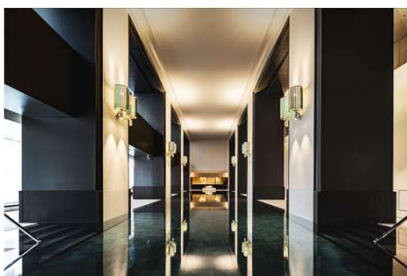
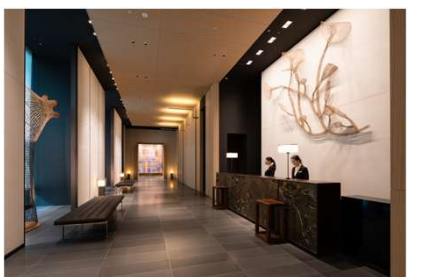
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー
 敷地面積 : 約6,535㎡
 延床面積 : 約121,000㎡
 高さ/階数 : 約220m/地上54階
 用途構成 : 住宅、商業、子育て支援施設、スパ 等

虎ノ門一・二丁目地区(2023年7月竣工予定) (仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー

敷地面積 : 約13,960㎡
 延床面積 : 約253,210㎡
 高さ/階数 : 約266m/地上49階
 用途構成 : オフィス、商業、ホテル、ビジネス発信拠点 等

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー	●7月 都市計画決定	●1月 再開発組合設立	●2月 着工			●1月 竣工			
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー	●9月 都市計画決定		●3月 着工					●1月 竣工	
(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー			●3月 都市計画決定	●11月 再開発組合設立	●11月 着工				●7月 竣工(予定)
新虎通りCORE		●7月 着工		●9月 竣工					

- 虎ノ門エリアで最大規模となる547戸の住戸に加えて、スパ施設、ミシュラン星付き日本料理店、インターナショナルスクールなどを併設する「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」が2022年1月に竣工。森ビルの住宅事業のノウハウを注ぎ込み、最高グレードを誇るグローバルレベルのレジデンスを提供。
- 歩行者デッキを通じて「虎ノ門ヒルズ 森タワー」や「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」と繋げることで、虎ノ門ヒルズエリアにおける回遊性を向上。
- 建築デザインは、クリストフ・インゲンホーフェン氏、インテリアデザインはトニー・チー氏が担当。

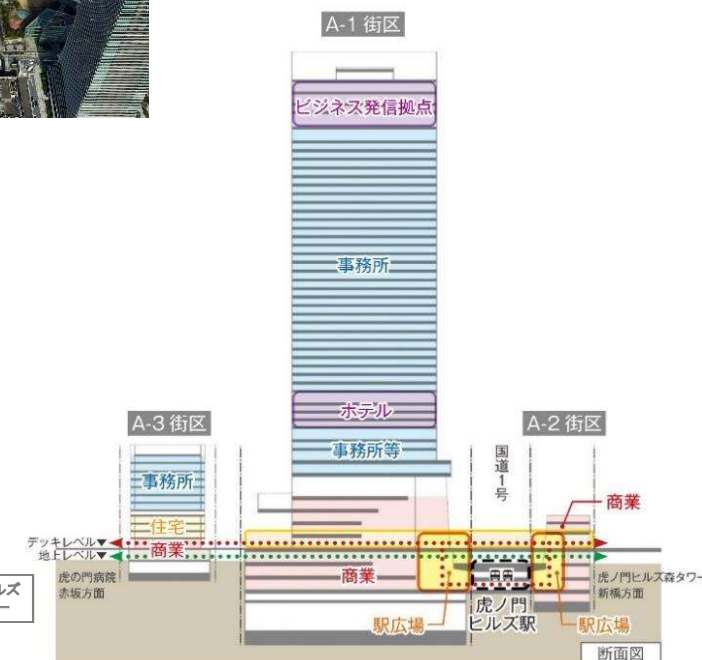
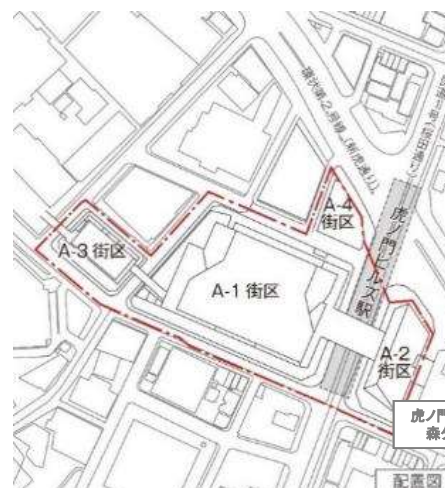


「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」 (仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー

- 東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」と一体となった駅広場や、周辺開発と連携した地上・地下・デッキレベルの歩行者ネットワークを整備。
- 地上 49 階建て、高さ約 266m の超高層タワーには、オフィス、駅前広場と一体となった商業施設、ホテルなどを整備。
- A -1 街区(高層棟)の最上部には、様々なビジネスイベントに対応するフォーラム、ギャラリー、レストラン等を有する多機能複合施設を開設し、世界に向けて新たなビジネスやイノベーションの発信を目指す。



現場写真(2022年3月撮影)



「虎ノ門・麻布台プロジェクト」と「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」 「WELL」と「LEED ND」「LEED BD+C(CS)」の予備認証(最高ランク)を取得

- 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」のA街区と「(仮称)虎ノ門ヒルズステーションタワー(A-1街区)」が、人々の健康やウェルネスに建物が及ぼす影響に着目した「WELL」の予備認証を取得。竣工後には最高ランクのプラチナランクを取得予定。
- 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」と「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」が、米国グリーンビルディング協会による国際環境性能認証制度「LEED」のエリア開発を対象とした「ND」カテゴリーにおいて、最高ランクのプラチナ予備認証を取得。
- さらに、「虎ノ門・麻布台プロジェクトのA街区」および「(仮称)虎ノ門ヒルズステーションタワー(A-1街区)」が、新築テナントビルを対象とした建物単位の認証「BD+C(CS)」カテゴリーにおいても、最高ランクのプラチナ予備認証を取得。「ND」と「BD+C(CS)」の両カテゴリーにおける本認証取得が実現した際には、世界初の事例となる見込み。

※WELL=WELL Building Standard

※LEED=Leadership in Energy & Environmental Design ※ND=Neighborhood Development ※BD+C(CS)=Building Design and Construction/Core and Shell Development



©Dbox for Mori Building Co.

屋上緑化が施された虎ノ門・麻布台プロジェクトの低層棟(イメージ)



虎ノ門ヒルズ 森タワーのオーバル広場

【WELL認証】

WELL

米国グリーンビルディング協会が運営する、建物環境の人々の健康やウェルネスに及ぼす影響に注目した世界初の建物基準。主に室内環境や、人々の健康に繋がる施設・サービスを評価する。

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」のA街区は、予備認証取得済の物件として**世界第1位の登録面積**、

「虎ノ門ヒルズステーションタワー(A-1街区)」は、国内第2位の登録面積となる。

【LEED認証】



米国グリーンビルディング協会が開発した建築物の環境性能評価システムで、世界で最も広く普及している認証制度の1つ。水やエネルギーの効率的利用、室内環境、持続可能な資材の利用などを通じて建物や街の環境性能を評価する。

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」によるNDカテゴリーの**プラチナランクの取得は、都内初**、「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」はそれに次ぐ2番目の事例であり、都心部の複合開発でのプラチナランク取得は世界的にも稀な事例である。

当社初の東南アジアにおける開発事業 ジャカルタ・オフィスタワープロジェクト(仮称)



所在地	インドネシア・ジャカルタ
敷地面積	8,088 m ²
延床面積	約190,000 m ²
着工	2017年7月
竣工	2022年(予定)

- 当社初の東南アジアでの開発事業で、ジャカルタ最高水準のプレミアムグレードとなる、地上 58 階建て、高さ約 266 m、延床面積約 190,000 m²の大規模オフィスタワー計画。
- ジャカルタ最大のビジネス街において、超高層ビルが集積する目抜き通り・スディルマン通り沿い、スマンギ交差点近くに位置。
- 東京や上海などで培った都市づくりのノウハウを活かし、成長著しい国際都市・ジャカルタのさらなる進化・発展に貢献。



建物エントランス(イメージ)



オフィスエントランス(イメージ)



商業店舗(イメージ)



ジャカルタ市広域図



現場写真(2022年3月撮影)

22年で2億人が来館した「ヴィーナスフォート」閉館

- 中世ヨーロッパの街並を模した屋内テーマパーク型ショッピングモールとして、1999年に臨海副都心エリアに誕生、これまでに延べ約2億人のお客様にご来館いただいたヴィーナスフォートが2022年3月27日に閉館。閉館発表直後から、閉館を惜しむ声や来館時の思い出を振り返るコメントが多数寄せられた。
- ファイナル企画「VenusFort Thankful Carnival」を2021年11月19日より展開。閉館日には各種ファイナルイベントを開催し、館内を埋め尽くさんばかりのお客様に来館いただき、盛況のもと22年間の歴史に幕を下ろした。



2021年のお台場エリア



中世ヨーロッパの街並を模した内装



噴水広場での「SNOW WISH FINAL」の様子



「VenusFort Thankful Carnival」の仮装パレードの様子



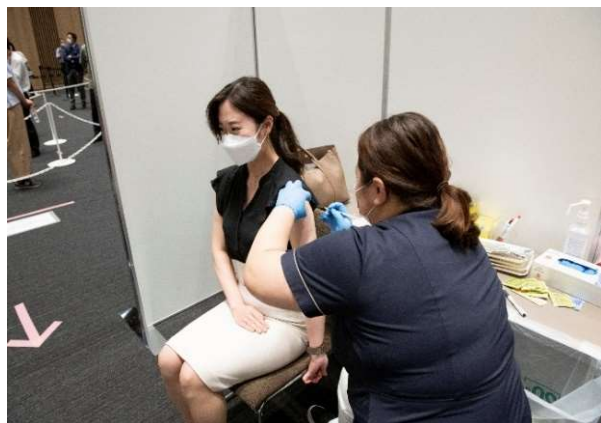
ファイナルセレモニーの様子



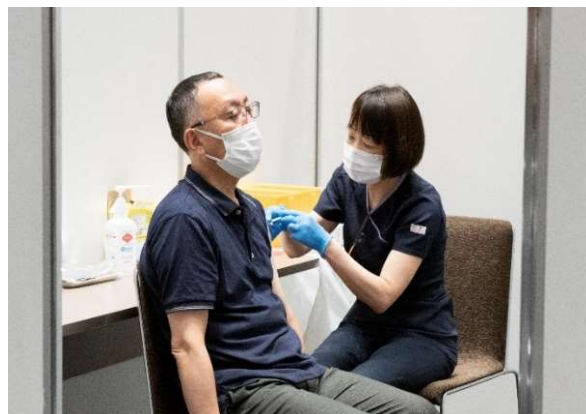
ファイナルセレモニーの様子

街を挙げた新型コロナワクチン職域接種を3回にわたり実施 区民を対象とした大規模接種会場提供に対し港区より感謝状を授与

- 当社および当社グループ会社の社員とその家族(約7,000名)に加えて、当社施設の管理・運営に関わる協力会社のスタッフや、当社施設にオフィスを構えるテナント企業のワーカー、住宅居住者、商業店舗で働くスタッフなど合計約10万人を対象に、虎ノ門ヒルズ、六本木ヒルズ、アークヒルズを接種会場として、ワクチンの「職域接種」を実施。(1、2回目接種:2021年6月~9月、3回目接種:2022年3月)
- 加えて、週末に実施される港区の大規模接種の会場として虎ノ門ヒルズフォーラムを提供(1、2回目)。これに対して、2022年3月25日に武井雅昭港区長より感謝状が授与された。



接種ブース



接種ブース



受付の様子(六本木ヒルズ会場)



会場内の様子(虎ノ門ヒルズ会場)



接種後待機スペースの様子
(虎ノ門ヒルズ会場)



港区長より感謝状を授与

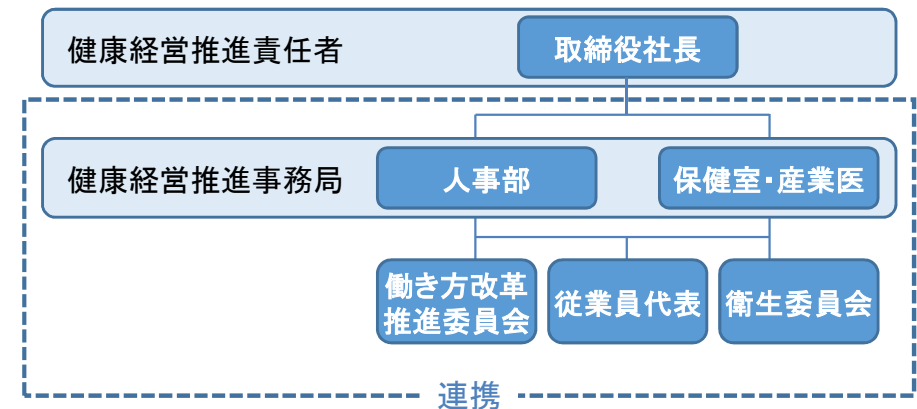
- 経済産業省による健康経営度調査において、「健康経営優良法人(大規模法人部門)2022」(ホワイト500)に認定。

■森ビル健康経営宣言

森ビルは、社員一人ひとりが心身ともに健康で、意欲的に仕事に取り組めるよう、従業員等の健康管理を経営戦略として捉え、健康経営を推進してまいります。
社員の健康維持・増進を図ることで、個人と企業双方の活力とパフォーマンスを高め、さらなる成長・発展につなげます。
さらに、「都市を創り、都市を育む仕事を通じて人々や企業を元気にする」という当社の社会的使命を果たすため、住む人、働く人、訪れる人が心身ともに健康で、生き生きと過ごすことができる都市づくりをより一層進めてまいります。

■推進体制

森ビルでは、取締役社長を健康経営推進責任者として、経営的な視点からグループ全体の健康経営を推進しています。
また、人事部・保健室・産業医が健康経営推進事務局として、働き方改革や従業員代表、衛生委員会と連携して、社員の健康維持・増進のためのさまざまな施策を展開しています。



【健康経営度調査】

経済産業省が各企業の健康経営の取組状況と経年での変化を分析することを目的として2015年から開始。毎年この調査の回答内容を元に、「健康経営銘柄」の選定および「健康経営優良法人(大規模法人部門)」の認定を行う。

森ビルの親子向け体験活動プログラム「ヒルズ街育プロジェクト」 文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰」2年連続受賞

- 森ビル株式会社が実施する親子向け体験活動プログラム「ヒルズ街育プロジェクト」が、文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」の審査委員会優秀賞（優れた活動を実践している企業に与えられる賞）を2年連続受賞（2020年度・2021年度）。
- コロナ禍を踏まえたオンライン企画の拡充、異業種であるあいおいニッセイ同和損保株式会社様とのコラボレーション、地元小学校への出張授業などを評価いただいた。



愛宕グリーンヒルズでのツアーの様子（過去開催時）



六本木ヒルズでのツアーの様子（過去開催時）



オンライン開催の様子（2021年度）

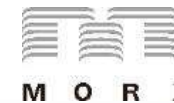


オンライン開催の様子（2021年度）

【ヒルズ街育プロジェクトとは】 （後援：文部科学省、港区教育委員会）

創業から60年にわたり地域の方と共に街づくりを推進してきた当社が、未来を担う子どもたちに、街づくりのノウハウや街の魅力を伝えるとともに、楽しく学びながら次世代の都市のあり方を考える機会として実施しています。六本木ヒルズ、アークヒルズなどの当社が開発・運営する実際の“街”を舞台に、当社が街づくりで大切にしている「安全・安心」「環境・緑」「文化・芸術」をテーマとした多様な体験型プログラムを展開。一般公募によるプログラムだけでなく、近隣小学校のカリキュラムの一環として当社施設への受入や小学校に出向いて行う出張授業の実施など、地域コミュニティにおける子どもの学習機会の提供にも貢献しています。なお、2007年の開催以降、延べ16,000名以上の方々にご参加いただいています。

2021年度 下半期の主な取り組み（プレスリリース配信日）



10月29日	「Innovative City Forum 2021」開催
11月4日	【ヴィーナスフォート】22年間の感謝を込めたヴィーナスフォート・ファイナル企画「VenusFort Thankful Carnival」
11月4日	【アークヒルズ】エコフレンドリーな「ARK HILLS CHRISTMAS 2021」スタート！
11月4日	【表参道ヒルズ】100本のリユース管楽器で装飾された"サステナブルクリスマスツリー"が登場
12月23日	2021年 東京23区オフィスニーズに関する調査
1月17日	IoT技術による「土地建物格付けシステム」を独自開発
1月24日	【六本木ヒルズ】「ボトル to ボトル」リサイクル実証実験開始
1月28日	「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」竣工
2月17日	【森美術館】《開幕》Chim↑Pom展：ハッピースプリング
2月22日	「エスカレーターハンドレール除菌装置」実証実験を実施
2月28日	森ビルの親子向け体験活動プログラム「ヒルズ街育プロジェクト」文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰」受賞
3月22日	虎ノ門・麻布台プロジェクト、虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト「LEED BD C(CS)」で最高ランクのプラチナ予備認証を取得
3月23日	「健康経営優良法人2022～ホワイト500～」に認定
3月28日	慶應義塾大学医学部との共同研究第一弾を開始
3月30日	ワクチン接種会場提供に対して港区長から感謝状を授与

添付資料

連結比較貸借対照表

(単位:百万円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
科 目	2021年3月31日	2022年3月31日	増減	科 目	2021年3月31日	2022年3月31日	増減
流 動 資 産				流 動 負 債			
現金及び預金	317,345	266,207	△ 51,137	支払手形及び営業未払金	10,195	11,749	1,554
受取手形及び営業未収入金	9,633	-	△ 9,633	短期借入金	47,069	45,596	△ 1,472
営業未収入金	-	9,672	9,672	1年内償還予定の社債	22,950	10,000	△ 12,950
契約資産	-	692	692	未払法人税等	2,563	11,969	9,406
有価証券	52,000	2,000	△ 50,000	契約負債	-	16,248	16,248
棚卸資産	21,055	72,289	51,233	賞与引当金	1,315	1,302	△ 13
その他の	28,771	30,847	2,076	その他の	50,278	39,896	△ 10,382
貸倒引当金	△ 33	△ 16	17	流動負債合計	134,373	136,763	2,390
流動資産合計	428,772	381,693	△ 47,079	固 定 負 債			
固 定 資 産				社 債	213,000	203,950	△ 9,050
有形固定資産				長期借入金	1,144,528	1,171,385	26,857
建物及び構築物	237,872	282,517	44,645	受入敷金保証金	81,266	87,362	6,096
機械装置及び運搬具	11,541	11,098	△ 443	長期預り金	1,575	1,279	△ 296
工具、器具及び備品	6,876	8,591	1,714	退職給付に係る負債	1,745	1,827	81
土地	485,593	489,943	4,349	役員退職慰労引当金	938	1,055	116
建設仮勘定	124,058	85,238	△ 38,820	固定資産解体費用引当金	3,500	3,490	△ 9
不動産仮勘定	153,520	242,130	88,609	繰延税金負債	123,355	126,637	3,281
信託不動産	587,222	577,624	△ 9,597	その他の	7,267	5,687	△ 1,579
その他の	1,722	1,726	4	固定負債合計	1,577,178	1,602,675	25,497
有形固定資産合計	1,608,408	1,698,871	90,463	負債合計	1,711,551	1,739,439	27,887
無形固定資産				純 資 産 の 部			
借地権	55,486	57,176	1,689	株 主 資 本			
のれん	11,896	11,970	73	資 本 金	79,500	79,500	-
その他	5,601	6,166	564	資本剰余金	22,539	22,563	24
無形固定資産合計	72,985	75,312	2,327	利益剰余金	443,610	474,267	30,657
投資その他の資産				自己株式	△ 11,507	△ 11,507	-
投資有価証券	39,799	50,350	10,550	株主資本合計	534,142	564,824	30,681
エクイティ出資	24,751	25,062	311	その他の包括利益累計額			
長期貸付金	58,716	86,856	28,139	その他有価証券評価差額金	10,688	15,050	4,362
退職給付に係る資産	1,065	987	△ 78	繰延ヘッジ損益	△ 489	69	558
繰延税金資産	140	89	△ 51	為替換算調整勘定	15,134	36,650	21,515
その他	47,558	49,138	1,580	退職給付に係る調整累計額	275	96	△ 178
貸倒引当金	△ 1,201	△ 1,298	△ 96	その他の包括利益累計額合計	25,609	51,866	26,257
投資その他の資産合計	170,828	211,184	40,355	非支配株主持分	9,691	10,931	1,239
固定資産合計	1,852,222	1,985,368	133,146	純資産合計	569,443	627,623	58,179
資産合計	2,280,994	2,367,062	86,067	負債純資産合計	2,280,994	2,367,062	86,067

連結比較損益計算書

(単位:百万円)

科 目	自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日	自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	増減
営業収益	230,082	245,306	15,224
営業原価	156,957	167,873	10,916
営業総利益	73,125	77,433	4,307
販売費及び一般管理費	22,204	24,674	2,469
営業利益	50,920	52,759	1,838
受取利息	738	955	217
受取配当金	780	203	△ 576
受取補償金	1,927	1,927	△ 0
持分法による投資利益	1,659	1,945	285
助成金収入	819	1,576	757
その他	1,962	3,663	1,700
営業外収益	7,888	10,271	2,383
支払利息	7,769	7,800	30
金融手数料	1,263	1,229	△ 34
その他	1,216	246	△ 970
営業外費用	10,250	9,275	△ 974
経常利益	48,558	53,755	5,196
固定資産売却益	2,078	307	△ 1,770
受取補償金	-	9,149	9,149
受取負担金	1,375	-	△ 1,375
その他	184	1,576	1,391
特別利益	3,637	11,033	7,395
固定資産売却損	147	64	△ 83
固定資産圧縮損	1,800	310	△ 1,490
減損損失	413	-	△ 413
事業再編に伴う損失	-	844	844
新型コロナウイルス感染症による損失	3,045	861	△ 2,183
その他	260	248	△ 12
特別損失	5,667	2,329	△ 3,338
税金等調整前当期純利益	46,528	62,458	15,930
法人税、住民税及び事業税	8,514	17,600	9,086
法人税等調整額	5,947	1,869	△ 4,077
当期純利益	32,067	42,988	10,921
非支配株主に帰属する当期純利益	649	747	97
親会社株主に帰属する当期純利益	31,417	42,241	10,824